HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	be willing to の語法に関する考察 : コーパスによるアプローチ
Author(s)	池田, 拓誉
Citation	研究論集, 25, 129（左）-146（左）
Issue Date	2026-01-16
DOI	https://doi.org/10.14943/rjgshhs.25.l129
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/98767
Type	departmental bulletin paper
File Information	10_rjgshhs_25_p129-146_l.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

10.14943/rjgshhs.25.l 129

be willing to の語法に関する考察：コーパスによるアプローチ

池　田　拓　誉

要　旨

本稿で取り上げる現代英語の be willing to は「喜んで～する」や「進んで～する」というほどの強い積極性は持たないとされている。しかしながら，辞書が持つ用例の中には be willing to が積極的な意味で用いられていると考えられるものも存在する。be willing to に積極的な用法が存在するかについて，コーパスを用いた調査を行い，その結果から，積極的な用法の be willing to も存在することを主張する。

1．はじめに

be willing to を「喜んで～する」や「進んで～する」と捉えることに対し，これまでいくつかの批判がなされてきた。例えばクラフト（2016：174）は，「辞書や参考書の中には，“be willing to do”は『喜んで～する』と書いてあるものがありますが，この表現にはそうした能動的な積極性はなく，『～するのは苦ではない』というニュアンスで用いられるのがふつうです。古い日本語に『～するのもやぶさかではない』という表現がありますが，それにピッタリなのが“be willing to do”なのです」と述べている。

上述のような指摘がなされる be willing to であるが，willing には a willing helper（自ら進んで手助けする人）のように，限定用法として用いられる場合は「自ら進んで～する」や「喜んで～する」という意味になることが指摘されている（安井・安井 2022：762）。このような側面を持つ willing であるが，本当に be willing to という表現に積極性はないのだろうか。

本稿ではコーパスを用いて be willing to の使用状況，特に積極的な意味で用いられる可能性について調査を行い，その結果を分析する。

本稿は以下の通り構成される。2 節は be willing to に関する辞典の記述・先行研究を概観する。3 節では Corpus of Contemporary American English を利用した be willing to の量的調査につ

いて，４節ではコーパスから得られた be willing to の積極的用例について報告する。５節では全体のまとめを行う。

２．辞典の記述・先行研究

本節では be willing to の意味がどのように捉えられているかについて，辞書の概観を行う。その後，be willing to に関連した先行研究をみていく。

2.1　Oxford English Dictionary の記述

be willing to について，まずは Oxford English Dictionary（以下，OED と略記）の willing の記述を概観する。OED による willing の説明と叙述用法（be willing to）の説明を（１）に示す。OED の定義では willing が「特にためらう理由･反対する理由がないからある行為を行う用意がある」といった，積極性の程度が低い定義になっていることがわかる。

（１）　a.　Disposed to consent or comply; ready to do something (specified or implied) without reluctance, having no objection; (also, without mention of a particular task or requirement) disposed to do what is asked or needed, ready to be of use or service.

（OED: willing, adj., sense 1.a.　下線は筆者による）

b.　In predicative use with to and infinitive, with clause, or without complement

（OED: willing, adj., sense 1.a.i.）

ただし，OED の用例内には積極的な意味として解釈可能なものも存在した。（２）をみてみよう。

（２）　There is only a small group of people willing to pay high prices for first-generation technology.

（OED: 2003　下線は筆者による）

（２）が「第一世代の技術に喜んで/進んで高いお金を払う人は少数派だ」という意味だとすると，積極的な意味で用いられていると解釈が可能である。

さらに，１節でも述べたように，限定用法の用例では willing が明らかに積極的な意味で用いられていると考えられる例がある。

（３）　Work is done rapidly by willing hands, in the midst of a willing people.

（OED: 1858　下線は筆者による）

詳細な文脈はないものの，（３）は仕事を進んでやる人たちによって仕事が素早く終わることが述べられ，willing hands/willing people は「進んで行う人々」を指すと考えられるのではないだろうか。この推測の下では，willing は積極的な意味を含意していると考えられる。

（２），（３）を踏まえると，be willing to に積極的な意味はないと断じることはできないのではないだろうか。

2.1.1　英英辞典

本節では OED 以外の英英辞典の記述を概観する。willing/be willing to に関する記述内容と例文は表１にまとめた（例文中の下線は筆者による。辞典には略語を用い，引用文献内の辞典の項にて詳述する）。

表１　英英辞典の記述

辞典名	willing の定義・be willing to の例文	辞典から読み取れること
COBUILD[10]	If someone is willing to do something, they are fairly happy about doing it and will do it if they are asked or required to do it. ・The military now say they're willing to hold talks with the political parties. ・There are, of course, questions which she will not be willing to answer.	頼まれたり，必要であれば行うといった受動的な意味になっており，積極的な意味はもたない記述になっている。
LDOCE[6]	［not before noun］prepared to do something, or having no reason to not want to do it. ・How much are they willing to pay? -quite/perfectly willing ・I told them I was perfectly willing to help.	何かをする心構えがあり，ある行為をしたくない理由はないという意味で記述されている。
MWALED	not refusing to do something：READY - followed by to + verb ・I'm perfectly willing to try. ・They are always willing and eager to help. ・We're ready and willing to make the trip.	何かをする上で反対する理由はないこと，ready と同義であることが示されている。 二つ目の例文は eager と，三つ目例文は ready との等位接続になっている。
OALD[10]	not objecting to doing sth; having no reason for not doing sth ・Many consumers are willing to pay more for organic food. ・They are willing and able to share their knowledge and experience.	何かをする上でそれに反対しないことや，しない理由が特にないといった意味に留まっており，積極的な意味はもたない記述になっている。

英英辞典の記述を踏まえると，be willing to にそれほど積極的な意味はないように推察される。「頼まれたり，必要であれば行う」，「反対する理由やしたくない理由がないから行う」というのは，どちらかといえば受動的な意味合いを持ち，積極性はあまり示さないだろう。

2.1.2　英和辞典

本節では willing/be willing to について英和辞典の記述を概観する。記述内容と例文は表 2 にまとめた（表記・レイアウトは原文と異なるが，定義・解説・例文は原文のまま。例文中の下線は筆者による）。

表 2　英和辞典の記述

辞典名	willing の定義・be willing to の解説・例文	辞書から読み取れること
アクシスジーニアス英和辞典	［be ～ to do］…するのをいとわない，…してもかまわない ◇（前略）be willing to は，自分から積極的になにかをしたいという意味を表しません。特に反対する理由もないので同調する場合に「‥してもかまわない」という意味で用いる表現です。強調する副詞の perfectly や quite をつけても，そのことは変わりません。 ・I'm（perfectly［quite］）willing to do that，but it may take several days．（それをしても別にかまわないけど数日かかりますよ） ◇「喜んで‥する」の意味は be ready［glad］to で表します。glad の方が「喜んで」の気持ちが強くなります。 ・I'm ready［glad］to drive you into town any time you want to go．（あなたが行きたい時にいつでも車で町までお送りします） ◇ただし，willing が名詞を修飾する場合，また副詞形の willingly や名詞形の willingness は，「喜んで」という意味を表します。	be ready/glad to との比較を通して積極的ではない意味で定義されている。
ジーニアス英和辞典	［be ～（for）O to do］（O が）…するのをいとわない，…してもかまわない ・She was willing to study hard to pass exam．（試験に合格するため彼女は猛勉強することをいとわなかった） ・I think that I would be willing for my husband to move on another job．（夫が別の仕事に移っても私はいいと思う） ◇ be ready to などと違い，自分から積極的にしたいというのではなく，特に反対する理由もないので同調の態度をとる時に用いる。ただし，willing が名詞を修飾する場合，また副詞形の willingly や名詞形の willingness は，「喜んで」という積極的な意味を持つ。	be ready to との比較を通して積極的ではない意味で定義されている。 副詞の willingly と名詞の willingness に関する言及もあり，それらは積極的な意味を持つと述べられている。
スーパー・アンカー英和辞典	（人が）…する用意がある；（be willing to do）（必要ならば）…するのをいとわない，…してもかまわない ・Many people are willing to pay a premium for quality．（良質のものには割増金を払うことをいとわない人が多い） ・I am willing to help you．（（おっしゃってくだされば）いつでもお手伝いします） ◇（1）be willing to do は通例必要なこと・頼まれたことなどを他人の希望に添うようにするときに「してもかまわない」という意味合いで用い，積極的な気持ちは希薄。（2）be ready to do はそのような場合にも，自発的に快くやる場合にも用いる。 ◇「喜んでお手伝いします」を（×）I'm willing to help you．という人がいる。willing は積極的な気持ちは表さず，手を貸すのが務めだから手伝う，くらいのニュアンスになる。ほんとうに「喜んで」という気持ちであれば，I'd be glad to help you．とする。	be ready to との比較を通して積極的ではない意味で定義されている。 「（おっしゃってくだされば）いつでもお手伝いします。」は「頼まれたり，必要であれば行う」といった受動的な意味に通ずる。

辞典名	willing の定義・be willing to の解説・例文	辞書から読み取れること
ライトハウス英和辞典	…するのをいとわない，…してもかまわない，…する用意がある ◇ be ready to…ほど積極的な気持ちはない ・If you'd like me to go with you，I'm quite willing.（もしいっしょに行ってほしいのならお供してもいいですよ） ・We were disappointed by the outcome of the election，but we're willing to accept it.（我々は選挙の結果に失望したがそれを受け入れる気だ）	be ready to との比較を通して積極的ではない意味で定義されている。
ルミナス英和辞典	…するのをいとわない，…してもかまわない，…する用意がある ◇ be eager to…ほど積極的な気持ちではない ・If you want me to go with you，I am quite 〜.（もし一緒に行ってほしいのなら行ってもいいですよ） ・We were disappointed by the outcome of the election，but we are 〜 to accept it.（我々は選挙の結果に失望したがそれを受け入れる気だ）	be eager to との比較を通して積極的ではない意味で定義されている。

以上，英和辞典でも英英辞典の時と同様に，be willing to に関してそれほど強い積極性はない記述となっている。積極的な気持ちを表したい場合は，be eager/ready/glad to の表現を用いるべきことが指摘されている。ただし，安井・安井（2022）の指摘と同様，willing が名詞を修飾する場合には積極的な意味を持つことを認めている辞書も存在する。

2.2　先行研究

本節では初めに be willing to に関して言及のある Palmer（1990），Westney（1995）を紹介する。その後 be willing to と関わりのある willingness に関して言及のある Leech（2011），be willing to の意味論的・語用論的研究である衛藤（2019）について概観し，最後に渡辺（2023）をみていく。

2.2.1　Palmer（1990）

Palmer（1990: 164）は be willing to が生じる複数の例を提示し，be willing to の機能について分析した。

（4）　He's very reluctant at the moment but when he realizes what it's for, he'll be willing to take part.

（Palmer 1990: 164　下線は筆者による）

（5）　... and that yes, of course, I would be willing to come into the common room.

（ibid.）

Palmer（1990）は（4）の例では will，（5）の例では would（would be willing to の代わりに）を

用いることが可能だと述べている。be willing to が用いられるのは will/would によって“volition”を単純に表すよりも，“willingness”という考えを正確に表現するためであると主張している。Palmer はモダリティにおいて，be willing to は will と関連があることを認めつつも，詳細な議論は行っていない。

2.2.2　Westney（1995）

Westney（1995: 204）は be willing to の意味が“willingness”という意味を明白に表し，will が表す“intention”とは異なると述べる。この点に関して Westney は複数の例を挙げながら対比を試みた。

（6）　He wasn’t willing to open the files, but he did so in the end.
（7）　* He wouldn’t open the files, but he did so in the end.
（Westney 1995: 204　下線は筆者による）

be willing to は willingness あるいは“readiness”という限定的な意味を表すというのが Westney の主張である。議論の前提となっている willingness については，意味は明白であるとして，Westney は具体的な定義づけをしていない。ただし，Westney は一貫して強い感情を示唆する will の対比として be willing to を挙げている。ゆえに Westney にとって，willingness はそれほど強い意志を表さないと考えていることが推察できる。これを踏まえると，（6）はそれほど強い意志ではなかったため，心変わりがして最終的に開けてしまったという解釈になるのであろう。

一方，（7）の例がなぜ非文であるかの説明について，Westney は wouldn’t が強い気持ちを示す will の否定過去形であるから，拒絶（refused to）を示すと主張する。つまり，拒絶するほどの強い気持ちがあるのに，それに反した行動をするというのは特別な文脈ではない限りは不自然であるということを主張したいのである。

2.2.3　Leech（2011）

be willing to に関する直接の言及はないものの，Palmer（1990），Westney（1995）と同様に Leech（2011）も intention や willingness に関して取り扱っている。Leech（2011: 87）は助動詞としての will の用法の中には volition と関係するものがあると主張し，それらを“insistence”（strong volition），“intention”（intermediate volition），“willingness”（weak volition）の 3 つに分類した。Leech は willingness の例として（8）のような例を挙げた。

（8）　a.　What will you pay me if I mend this radio?
　　b.　Jim’ll help you – he’s always ready to oblige a friend.
　　c.　Give it to the dog – she’ll eat anything.
　　d.　I’ll lend you some money, if you like.

（Leech 2011: 87）

Leech（2011）は intention が volition の中で最も一般的なタイプであるとし，weak volition（willingness）を quite common，strong volition（insistence）は rare という，頻度に関しての言及もおこなっている。ただし，上記３つの用法に関する具体例とそれに基づく統語的特徴に関しては述べられているものの，be willing to が同様に分類できるかは述べられていない。

Palmer（1990），Westney（1995），Leech（2011）までの議論で分かることは willingness という概念があることである。そして，Westney（1995），Leech（2011）では willingness が弱い意志を表すことが指摘されている。また，be willing to が表すのは willingness であることが，Palmer（1990），Westney（1995）で述べられている。これらのことから，be willing to が willingness という弱い意志を表すとまとめることができる。ただし，いずれの研究においても「willingness が表す弱い意志」とはどのようなものであるか，明確な定義はなされていない。

2.2.4　衛藤（2019）

Palmer（1990），Westney（1995）や Leech（2011）の議論を踏まえたうえで willingness の意味規定を試みた研究に衛藤（2019）がある。衛藤は Westney と同様に，be willing to の使用例を観察した。さらに，be willing to を語用論的に観察し，語法上の特徴も指摘した。

衛藤（2019：82）は be willing to に関する定義について調査し，Cambridge Advanced Learner's Dictionary の定義（９）と Collins COBUILD Advanced Learner's Dictionary の定義（10）を引用した。

（９）　to be happy to do something if it is needed

（10）　If someone is willing to do something, they are fairly happy about doing it and will do it if they are asked or required to do it.

（衛藤 2019：82　下線は衛藤による）

衛藤は（９）の下線部から，「もし客観的な要因によって必要が生じれば」（p.82）という意味であることがわかると主張している。また，定義（10）の下線部にある「もし依頼や規則などの客観的な外的要因があれば」（p.82）が（９）の下線部と同趣旨のことを指していると述べている。これらの解釈から，衛藤は willingness とは「話者が自らそうしたいと思っているわけではない」（p.82）ことであると主張した。また衛藤は（10）に関して，“fairly happy about doing it”の fairly を「文主語が好意的に感じていないことを表す」（p.82）と解釈した。（９），（10）の記述を踏まえ，衛藤は willingness が積極的意志をもって何かをおこなうというよりは，むしろ「自分としてはそうするつもりはないが，もし必要ならそうしてもよい」（p.82）という意味と同義であると見なした。

先行研究や上記の辞書の記述を踏まえ，衛藤は willingness を（11）のように規定した。

（11）　willingness とは，規則などによって生じる必要性や他者からの依頼など客観的な外的要因があるという条件下で，文主語がある行為を行おうとする意志，および，自分の意志に反して当該の行為を強制されないことを示す概念である。

衛藤（2019：82）

この裏付けとして，衛藤（2019）は（12）の実例を挙げた。（12）の下線部は，上記の（11）で規定した，条件等の外的要因にあたると衛藤は述べる。そのような外的要因があってある行為を遂行することを be willing to は表すと衛藤は主張する。

（12）　The firm was willing to pay a lot of money to avoid two things: further humiliation, and the spectacle of a trial that could cause serious financial damage.

（J. Grisham, *The street lawyer*；衛藤 2019：83　下線は衛藤による）

会社としては恥の上塗りになること，裁判沙汰になることを避けたいと考えていることがわかる。そのような外的要因から，大金を払っても構わないと会社は考えている。そのような要因さえなければお金を払おうなどと会社は微塵も考えていない点で，文主語の意志を表す will とは意味的に異なると衛藤は主張している。

ここまでの議論のまとめを図 1 によって示す。

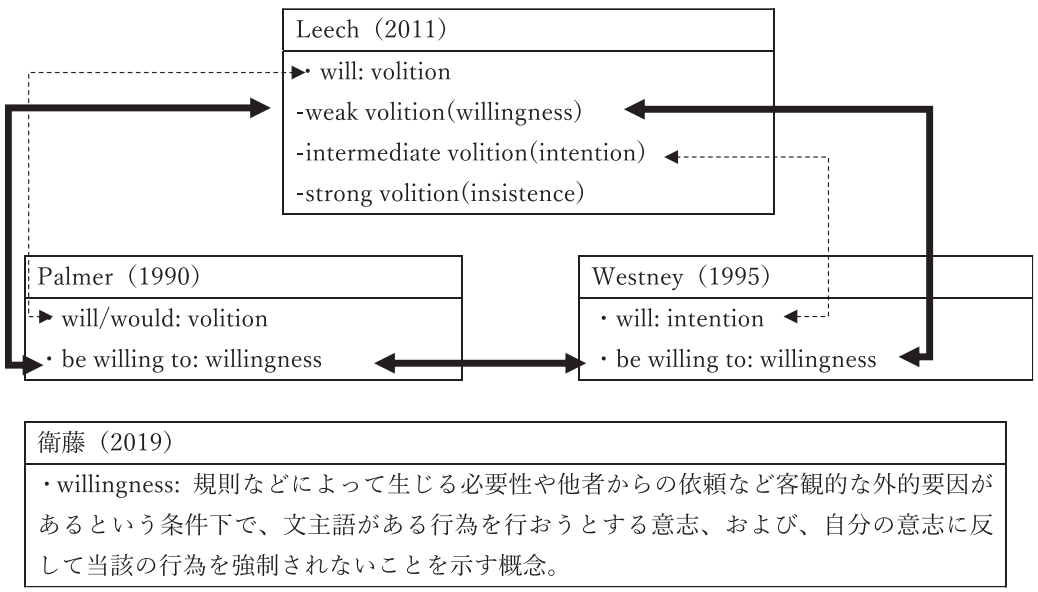


図 1　先行研究の関連性

実線の矢印からわかる通り，先行研究のいずれも willingness という概念を導入している。波線の矢印は will/（would）に関して Palmer と Westney の唱えた概念が，Leech の唱えた概念と関連していることを示している。そして，衛藤はそれらの先行研究に基づき，willingness の規定を試みた。

最後に 2.1 節で取り扱った辞書の記述との関係についてみていこう。be willing to が willingness を表し，それが強い積極性を示さないとする先行研究の考えは，2.1 節で示した英和辞典・英英辞典の記述と一致していることがわかる。

2.2.5　渡辺（2023）

渡辺（2023）は近代英語期に用いられた近接未来表現としての be ready to の用法を調査した。渡辺は研究の中で，ready and X to あるいは X and ready to というワードペアの形における共起語について調査した。通時コーパスである Corpus of Historical American English（COHA）を用い，ready and X to のパターンで最も多かったのは willing であることを明らかにした（300 例中 144 例）。また，語順を入れ替えた X and ready to の形式についても調査し，willing が最多であるものの（320 例中 23 例），他にも多種多様な形容詞が出現しているため，圧倒的優位性はないことも主張している。ただし，渡辺（2023: 139）は，Early English Books Online（EEBO）の調査では，いずれの形式においても willing が突出していることから，これらを慣用的コロケーションとみなせるほどであると評している。渡辺は複数の実例を挙げて，それらの例では ready と willing が全体として「〜する意志と用意がある」という意味になると論じている。willing and X to と X and willing to というワードペアの形における共起語についての調査は 3 節で取り扱う。

先行研究から be willing to は willingness を表し，それは強い積極性を持たないということが分かる。しかし，本当に be willing to は積極的な意味で用いることはできないのだろうか。be willing to の積極的な意味の可能性については 4 節で言及する。

3．量的調査

本稿ではコーパスによる検証を行う。世界英語のコーパスである，Global Web-Based English（GloWbe）で be willing to を検索すると，アメリカ英語で最も使用されることが分かる（be willing to の全用例数 77072 件のうち，アメリカ英語は 22728 件，次いでイギリス英語は 12946 件であった）。この結果を踏まえ，本研究では Corpus of Contemporary American English を（以下 COCA）使用する。COCA は現代アメリカ英語のコーパスであり，アメリカ英語に関する調査・研究において有益である（滝沢 2017：23）。

本節では実際に使用された用例を基に be willing to の語法について調査を行う。具体的には以下の点を検証する。

① COCA による全般的傾向

② COCA を用いた be willing to と共起する動詞，形容詞，副詞

③ COCA から得られた積極的な意味で用いられる be willing to の用例観察

3.1　コーパスによる全般的傾向

COCA 全体を通して be willing to の使用傾向について調べた結果を表 3 に示す。

表 3　COCA による be willing to の検索結果

SECTION	ALL	BLOG	WEB	TV/M	SPOK	FIC	MAG	NEWS	ACAD		1990-94	1995-99	2000-04	2005-09	2010-14	2015-19
FREQ	44324	8320	6673	4568	8080	2838	4893	5314	3638		5346	5038	4979	4651	4704	4613
WORDS (M)	993	128.6	124.3	128.1	126.1	118.3	126.1	121.7	119.8		121.1	125.2	124.6	123.1	123.3	122.8
PER MIL	44.64	64.69	53.70	35.67	64.06	23.99	38.81	43.65	30.37		44.14	40.24	39.95	37.80	38.14	37.58
SEE ALL SUB-SECTIONS AT ONCE																

COCA による be willing to の全用例数は 44324 件であった。ジャンルに関しては BLOG と SPOKEN での使用が多く，FICTION での使用が一番低かった。また，年代ごとの be willing to の使用に関しては，劇的な使用の増減は見られず，一定の使用例が見られた。

3.2　be willing to と共起する動詞

初めに be willing to と共起する動詞にはどのようなものがあるかを見ていこう。なお，全ての調査においてレンマ検索（すべての活用形を検索する方法。本稿の場合は，be willing to のすべての be 動詞のすべての活用形を検索する）を用いた。具体的には BE willing to VERB という検索式によって検索を行った。表 4 はその検索によって得られた，be willing to と共起する高頻度の動詞上位 20 番目までを表したものである。

表 4　be willing to と共起する高頻度の動詞（COCA）

pay	2824	help	582
take	2315	talk	579
give	1723	let	552
go	1445	risk	523
accept	1055	sacrifice	507
work	1035	try	432
make	1007	share	422
put	875	admit	391
bet	844	say	381
spend	635	listen	375

上記の検索結果だけでは be willing to と共起する動詞の特徴を見いだせなかったため，Collocates モードによる検索も行った。Collocates モードでは相互情報量の値の順で検索結果を表示することが可能である。相互情報量とは，中心語と共起語が互いに相手の情報をどの程度持っているかを示す値である（石川 2021：127）。検索手法は中谷編（2024：207–208）を参考にし，中心語を BE willing to，VERB を共起語に設定した。共起幅は右 3 語，SORTING は RELAVANCE とし，MINIMUM の項目で FREQUENCY を選択・チェックし，閾値は 100 とした。

表 5 は上述の検索結果に基づき，be willing to と共起する動詞を相互情報量の高い上位 20 番目までを並べたものである。

表 5　相互情報量に基づく be willing to と共起する動詞（COCA）

sacrifice	5.94	testify	4.82
bet	5.84	invest	4.79
concede	5.54	admit	4.73
tolerate	5.47	forgive	4.53
compromise	5.43	risk	4.33
accept	5.39	participate	4.25
negotiate	5.25	commit	4.04
cooperate	5.18	spend	4.03
pay	5.17	settle	3.89
overlook	5.10	listen	3.80

「犠牲にする」を表す sacrifice や risk，「譲歩する」を表す concede，「妥協する」を表す compromise など，一般的には進んで行わないと考えられる動詞と be willing to が共起していることがわかる。

3.3　be willing to と共起する形容詞の頻度

形容詞に関しては willing の後に形容詞が後続する場合（be willing and X to）と willing の前に形容詞がくる場合（be X and willing to）とに分けて検索を行った。まずは willing の後に形容詞が後続する場合の全検索結果を表 6 に示す。検索式は BE willing and ADJ to で検索を行った。『ライトハウス英和辞典』や『ジーニアス英和辞典』では，be ready to ほど積極的な気持ちはないとされ，be willing to と be ready to の態度の差が指摘されていたが，COCA の検索結果からは be willing to と be ready to が共起する場合が一定数あることが分かる。

他にも「熱心な」という積極的な意味を持つ eager や「喜んで」という肯定的な気持ちを示す happy が上位に位置しているのは興味深い点である。

次は形容詞が willing よりも先にくる場合の全検索結果について表 7 に示す。検索式 BE ADJ and willing to で検索を行った。

表 6　be willing to と共起する形容詞（COCA）

able	325	unafraid	2
ready	27	responsive	1
eager	18	grateful	1
happy	7	free	1
anxious	3	eligible	1
available	2	courageous	1
desirous	2	capable	1
likely	2	accustomed	1
unwilling	2		

表 7　be willing to と共起する形容詞（COCA）

ready	171	supportive	2	anxious	1	great	1
able	113	tough	2	approachable	1	happy	1
open	18	passionate	2	apt	1	hard-working	1
available	10	unarmed	1	articulate	1	hawkish	1
eager	8	unwilling	1	assertive	1	excited	1
interested	8	valuable	1	big	1	faithful	1
capable	6	vulnerable	1	bisexual	1	helpful	1
patient	5	welcoming	1	bookish	1	fun	1
honest	4	well-intentioned	1	calm	1	lazy	1
flexible	4	sympathetic	1	caring	1	literate	1
aware	4	tenacious	1	civil	1	living	1
desperate	3	proud	1	clever	1	mature	1
courageous	3	rational	1	contrite	1	mobile	1
comfortable	3	sophisticated	1	dependable	1	nice	1
knowledgeable	3	spontaneous	1	dishonest	1	hopeful	1
friendly	2	stoical	1	earnest	1	hypocritical	1
healthy	2	strong-willed	1	coachable	1	imaginative	1
eligible	2	receptive	1	active	1	immune	1
energetic	2	relaxed	1	compassionate	1	impartial	1
generous	2	responsive	1	competent	1	industrial	1
close	2	ruthless	1	concerned	1	patriotic	1
consistent	2	self-aware	1	conscientious	1	personable	1
adaptable	2	sensitive	1	conservative	1	positive	1
reasonable	2	afraid	1	considerate	1	pregnant	1
serious	2	alert	1	genuine	1	kind	1
single	2	alive	1	gracious	1	open-minded	1
proactive	2	amiable	1	grateful	1		

BE willing and ADJ to の時とは異なり，こちらの検索結果は共起する形容詞が分散していることが分かる。共通している点は ready，eager が上位に位置していることである。ready が一番多い頻度であること，つまり ready and willing のパターンが最も多かったことは渡辺（2023）の調査結果と一致する。

3.4　be willing to と共起する副詞の頻度

最後に be willing to と共起する副詞についてみていこう。副詞は文の様々な位置に存在することができるが，本稿では一般的な配置である be 動詞の直後に副詞が置かれる場合について調査した。得られた検索結果のうち，上位 20 番目までを表 8 に示す。検索式 BE ADV willing to で検索を行った。

表 8　be willing to と共起する高頻度の副詞（COCA）

more	912	now	132
perfectly	291	only	85
always	284	really	82
so	232	often	70
less	222	too	67
still	206	certainly	63
quite	165	actually	61
also	159	just	54
very	143	increasingly	46
even	140	as	44

more，perfectly，very など，be willing to の積極性を強化しているのではないかと考えられる副詞が上位に存在している。ただし，副詞の perfectly については，『アクシスジーニアス英和辞典』の解説で，強調する副詞の perfectly がついたとしても，「…してもかまわない」という意味は変わらないと述べられている。

4．質的調査（用例分析）

本節では 3 節の検索結果を基に，積極的な意味を持つ be willing to の用例がないかを観察する。紙幅の都合上，本稿では be willing to と共起する形容詞を取り上げる。用例内の下線は筆者による。

4.1　BE willing and ADJ to パターンの用例分析

まずは be willing and の後に desirous が来る用例を観察しよう。

（13）　Onesimus had withdrawn, to his master's injury; but now he had seen his sin and repented, he was willing and desirous to return to his duty.

（COCA, 2012, WEB）

オネシモという人物は自分の罪を鑑み，悔い改め自分の務めに戻ることを望んでいる。自身の欲求を表す desirous という形容詞との共起から，ここでの be willing to は積極的な意味を持つと考える。

次に be willing and の後に happy が来る用例を観察する。

（14）　The Kaczor-Setter wedding last Saturday in Port Huron, Mich., was literally one of convenience. Oh, make no mistake, the couple were willing and happy to be there - Cassandra Kaczor in full-length gown and carrying a bouquet of flowers, and groom Kerry Setter attired in a tuxedo. It's just that the setting wasn't exactly traditional. While guests looked on, they exchanged vows at a 7-Eleven store where she's an assistant manager.

（COCA, 1998, NEWS）

ここでは Kaczor と Setter の結婚式についての内容が述べられている。彼らの結婚式は伝統的なものではなく，新婦がアシスタントマネージャーとして働いているコンビニエンスストアで行われた。「間違えないでほしいのだが」との記述もあることから，結婚式を挙げるために彼らが望んでそのコンビニエンスストアにいると判断でき，be willing to が積極的な意味で用いられていると考えられる。

次に be willing and の後に eager が来る用例を観察しよう。

（15）　The Borders stores carry a nice range of musical periods, but the staff is not hired to tell you about them. On more than one occasion, the name "Brahms" drew looks of bewilderment, but at the same time they were willing and eager to jump on their computers to provide further assistance.

（COCA, 2007, NEWS）

ここでは The Borders という店に関する話である。そこでは幅広い時代の音楽を扱っているが，雇われている店員はその時代の話ができるわけではない。客にブラームスについて尋ねられて

困ってしまったスタッフだが，すぐさまコンピューターで調べてくれたことが書かれている。店員のサービスのよさを表す文脈なので，ここでの be willing to は積極的な意味で用いられていると考えられる。

ここからは be willing and の後に ready が来る用例を観察する。

（16） The company is one that boasts amazing customer support that is willing and ready to help you out no matter what day or what time it is.

（COCA, 2012, BLOG）

ここではある会社について述べられている場面である。書き手は，素晴らしい顧客サポートを有する会社であると記述しており，その会社のことを肯定的にみていることが伺える。ここから，書き手はいつでも顧客を助ける用意がある会社の積極性を評価していると判断できるだろう。よって，ここでの be willing to は積極的な意味で用いられていると考えられる。

4.2 BE ADJ and willing to パターンの用例分析

ここからは BE ADJ and willing to パターンの用例分析を行う。まずはは（be） willing to の前に desperate が来る例を見る。

（17） For many patients, the bulk of their meals consists of grains（like pizza dough or crackers）, cheese, fatty meats and sugar. Unless they suffer from severe conditions, and are desperate and willing to try just about anything, sticking to paleo can be a stretch.

（COCA, 2010, NEWS）

ここではパレオダイエットに関する話がなされている。多くの患者にとって，食事の大部分は穀物，チーズ，脂肪の多い肉，砂糖で構成されており，彼らが深刻な健康状態に苦しんでいて，何でも試してみようとする気にならない限りはパレオダイエットにこだわることは困難なものであることが述べられている。多くの患者にとっては何でもしようとする強い気持ちがなければパレオダイエットは難しいという解釈ができるので，ここでの be willing to は積極的な意味で用いられていると考えられる。

次に，（be） willing to の前に supportive が来る例を見る。

（18） “Why are people asking us to teach their children under these circumstances?” Despite the shortages, teachers agree that things are better at Washington than at many other schools. They say their administration is supportive and willing to fight for its teachers, to get them as many

materials as are available.

（COCA, 1992, NEWS）

ここでは学校が抱える問題に関する話がなされている。教材の不足が深刻な中，ワシントンの学校は他の学校よりは比較的良いことが述べられている。学校の運営陣が協力的であり，可能な限り多くの教材を手に入れようと教師のために戦ってくれていることが述べられている。学校の運営陣が教師のために動いていることが分かるので，ここでの be willing to は積極的な意味で用いられていると考えられる。

今度は，（be）willing to の前に energetic が来る場合を見てみよう。

（19）In November 1999, the paper promoted Mr. Blair to intermediate reporter, the next step toward winning a full-time staff position. While reporting on business for the metropolitan desk, editors say, he was energetic and willing to work all hours.

（COCA, 2003, NEWS）

ここではブレアなる人物が昇進し，正社員採用への一歩を踏み出したことが述べられている。編集者たちは，彼が精力的で，いつでも働ける姿勢を示していたと述べている。昇進や正社員採用という背景を踏まえると，ブレアは長時間働く意欲があることをアピールしようとしていたことが伺え，それを編集者たちも感じ，そのような態度を評価していたことがわかる。よってここでの be willing to は積極的な意味で用いられていると考えられる。

次に，（be） willing to の前に helpful が来る例を見る。

（20）When I recovered from my injuries, they permitted me to stay. I was helpful and willing to work, and I soon became a familiar figure in the monastery. They gave me a new name, and set me simple tasks, which I willingly performed. And the years passed. I found serenity in my new life. My memory did not return, but my mind cleared, and I began to read and engage in discourse with the monks.

（COCA, 2003, FIC）

ここでは I なる人物が修道院にいる場面である。I が怪我から回復したときも，they なる人物たちはそこにいることを許した。I はそこで役に立とうと，仕事をしたことが述べられている。I なる人物が修道院に対する恩義から役に立とうとしていたことが伺えるので，ここでの be willing to は積極的な意味で用いられていると考えられる。

ここでは（be）willing to の前に amiable が来る例を見る。

（21）“My mother is the musician,” Nachef says. “She is a glorious soprano – so the love of music came from her.” When Nachef’s parents married, her father gave her mother a piano. “She always had a gorgeous voice,” Nachef continues. “And so, when she had me, she said she’d like to fulfill her dreams, as a musician, in me. “She smiles.” And I guess I was amiable and willing to do that.”
（COCA, 2014, NEWS）

ここではナシェフなる人物とその母に関する話がなされている。ナシェフの母は音楽家としての夢をナシェフを通して実現したいと言っていたことが明かされている。音楽への愛が母親によるものであることと，母親の願いに対して自分がどのように応えたかを笑顔で語っていることから，ナシェフがそれを喜んで実現しようとしたことが判断できるだろう。よって，ここでの be willing to は積極的な意味で用いられていると考えられる。

次に（be）willing to の前に strong-willed が来る例を見る。

（22）The second group are those people who want to go to the timeshare sales pitch only for the benefits, willing to give up a couple hours of time for free tickets to Disney, a show, or hotel nights. They are strong-willed and willing to deal with high-sales pitches and will say no whatever the reason.
（COCA, 2012, WEB）

ここではタイムシェアのセールスピッチに関する話がなされている。グループの人々は特典のためだけにセールスピッチに行きたいと思っており，売り込みについては毅然とした態度で断ることが strong-willed から判断できる。したがって，ここでの be willing to は積極的な意味で用いられていると考えられる。

5．まとめ

本稿では，辞書や先行研究ではあまり積極性を表さないとされる be willing to について，コーパス（COCA）に基づく分析を行った。具体的には，be willing to と共起する動詞・形容詞・副詞の頻度について量的な調査を行った。また，本稿では質的調査として，be willing to が積極的な意味で用いられていると客観的に判断できる，be willing to と共起する形容詞の用例を抽出し，考察した。無論，これは辞書や先行研究の記述を否定するものではない。しかしながら，これまで be willing to に強い積極性はないとの指摘で留まっていた従来の記述を再考する意義を示せたと考える。

今後は be willing to の一般的な用法とされるものに対してどの程度の割合で積極的な用法が

存在するかなど，さらなる調査に努めていきたい。

（いけだ　ひろたか・言語科学研究室）

参考文献

Leech, G.（2011）*Meaning and the English Verb*.（3rd ed.）Tokyo: Hituzi Syobo.

Palmer, F. R.（1990）*Modality and the English Modals*.（2nd ed.）London: Longman.

Westney, P.（1995）*Modals and Periphrastics in English: An investigation into the semantic correspondence between certain English modal verbs and their periphrastic equivalents*. Tubingen: M. Niemeyer.

石川慎一郎（2021）『ベーシックコーパス言語学 第 2 版』東京：ひつじ書房.

衛藤圭一（2019）「Be willing to に関する意味論的・語用論的一考察」赤野一郎先生古希記念論文集委員会編『言語分析のフロンティア』pp.80–91. 東京：金星堂.

キャサリン・A・クラフト（2016）『先生，その英語は使いません！』東京：DHC.

滝沢直宏（2017）『ことばの実際 2　コーパスと英文法』東京：研究社.

中谷健太郎編（2024）『パソコンがあればできる！　ことばの実験研究の方法
容認性調査，読文・産出実験からコーパスまで 第 2 版』東京：ひつじ書房.

辞典

COBUILD[10] =*Collins COBUILD Advanced Learner's Dictionary*, 10th edition（2023）, London: Longman.

LDOCE[6] =*Longman Dictionary of Contemporary English*, 6th edition（2014）, London: Longman.

MWALED=*Merriam-Webster's Advanced Learner's English Dictionary*（2008）, Incorporated Springfield, Massachusetts: Merriam−Webster.

OALD[10] =*Oxford Advanced Learner's Dictionary*, 10th edition（2020）, Oxford: Oxford University Press.

OED=*Oxford English Dictionary*（https://www.oed.com/）

竹林滋（2005）『ルミナス英和辞典 第 2 版』東京：研究社.

竹林滋・東信行・赤須薫編（2012）『ライトハウス英和辞典 第 6 版』東京：研究社.

中邑光男編（2019）『アクシスジーニアス英和辞典』東京：大修館書店.

南出康世編（2022）『ジーニアス英和辞典 第 6 版』東京：大修館書店.

安井稔・安井泉（2022）『英文法総覧 大改訂新版』東京：開拓社.

山岸勝榮編（2021）『スーパー・アンカー英和辞典 第 5 版［新装版］』東京：学研プラス.

コーパス

COCA=*Corpus of Contemporary American English 1990-2017*, Brigham Young University, U.S.A.（Mark Davies）.

GloWbe=*Global Web-Based English*, Brigham Young University, U.S.A.（Mark Davies）.